みんなの広場

ところざわの暮らし 今昔 ❷

初夏の風物詩～茶摘み～

所沢市は狭山茶の産地です。今ごろは皆さんも、初夏の香り高い新茶を楽しまれていることでしょう。狭山茶は、畑の周囲や境に植えた畦畔茶がその始まりで、手揉みの製法で作った茶を仲買人に売り、残りを自家用としました。

茶摘みのようす

現在のような広々とした茶園が作られるようになったのは、多くが昭和30年代からです。また、茶園の普及とともに製茶にも機械が導入されるようになりました。

ところで、歌にある茶摘みの時期は八十八夜の五月初旬ですが、市域で実際に茶摘みが始まるのはそれより遅く、５月中旬からでした。茶は、適期を逃がすと葉が硬くなるため、短期間に労働力を集中して５月いっぱいに摘み終えるようにしました。茶摘みは一家総出の仕事で、手が足りないときには、よそから摘み手を頼んだものです。また、学校では１週間から10日間の「お茶休み」が出され、子どもも自分の家やよその茶園で、茶摘みを手伝いました。

▶カケダイで茶葉を量るようす

摘み賃は、茶葉の目方に応じて支払われました。カケダイという籠に茶葉を入れて秤にかけ、１貫目（3.75キロ）につきいくらで、摘み賃が計算されたのです。昭和32年ごろは１貫目が50円くらいで、子どもは、１日に200円から多くて300円を稼ぎました。

現在のように日常にお金を持つことのなかった子どもにとって、茶摘みの収入はとてもうれしいもので、これを学用品の購入や夏まつりの天王様の小遣いにあてました。（宮本）

とこととこ 町内会めぐり

【富岡地区・十四軒自治会】
～伝統と新しい風のまち～

美しい自然に恵まれた富岡地区の中に十四軒自治会はあります。一面に広がる畑と雑木林。正式には「平地林」と言いますが、地元の人は愛着を込めて「ヤマ」と呼んでいます。一見何でもない自然の風景ですが、三百余年前「三富開拓」を担った先人達が自然と大地と、あるときは格闘し、あるときは対話をしながら知恵と工夫を凝らし創り上げたものです。

十四軒自治会とは三富の下富村に位置し、当時は、文字どおり十四軒の民家があったと考えられています。もともとは、農村地帯でしたが、昭和40年代以降から年々住宅が増え、今では伝統と新しい風とのバランスが程よいすばらしい地域です。

十四軒の入口には、八雲神社（天王様）があり、祖先がそこに住む人々の繁栄を祈って守り神としてまつり、今も地域の人々に大切にされています。同神社の祭礼は、毎年７月31日・８月１日の２日間行われ、31日の夜祭りには農協女性部・桔梗の会の皆さんが民謡踊りで華を添え、子ども会・十四和会の皆さんによる活気あふれる御輿は祭を一段と盛り上げます。

八雲神社（天王様）

十四軒自治会には地域を愛し、人とのつながりを大切にする人や、地道に地域や社会に貢献する人がたくさんいます。これこそ我が地域の誇りです。これからも明るく・仲良く・活気ある地域になるよう努めていきます。

街の写真館

▶リサイクルの大切さを学べます。『裂き織り講習会』もその一つ。古布や着物の古着などを細く裂いて織り上げます。「エコロ祭り」。５月１日㈰／リサイクルふれあい館・エコロ

◀ハナミズキ通りに沿ってたくさんの出店が並びました。当日は、子ども御輿も大活躍。大勢の人でにぎわった「ハナミズキまつり」。４月16日㈯／小手指駅北口

▲願いを託して「身代わり寅」が毘沙門堂に奉納される「寅まつり」。この時期に境内に咲き誇る牡丹の花が、訪れる人々を魅了します。５月１日㈰／多聞院

防災チェック

～大災害！避難の心得は？～

子ども：お父さん、大きな災害が起きて避難するにはどんなことに注意したらいいの？

お父さん：よし！教えてあげよう。

①素足や長靴はやめよう。運動靴などがいいね。

②瓦や看板などが落ちたり、強風時には物が飛んできたりしてケガをすることがあるから、ヘルメットや防災頭巾などで頭を守ることが大切だね。

③ブロック塀や門柱、自動販売機などからできるだけ早く離れよう。崖や川べりも危険な場所なので近寄らないようにしようね。

④避難する場合には、玄関などに貼り紙で避難先や安否情報を残しておこうね。

⑤特に、お年寄りや傷病者、乳幼児などには気を配ってあげようね。

子ども：うん。わかったよ。

◎避難の際には、さまざまな危険が潜んでいます。隣近所の皆さんと協力しながら、安全に避難してください。

問い合わせ　危機管理課（☎2998-9399・FAX2998-9042）

はつらつ野老っ子

「宇宙授業を通して伝えたいこと」

小黒　麻美さん（けやき台在住）

小黒さんが宇宙に興味を抱くようになったきっかけには、『宇宙メダカ』と向井千秋宇宙飛行士との出会いがありました。

小黒さんが中学３年生のとき、向井さんがスペースシャトルから宇宙実験に用いた『宇宙メダカ』を持ち帰りました。小黒さんはこのメダカが欲しいと応募し、幸運にも抽選で選ばれた数十人に入りました。向井さんが所沢市に講演に訪れた際、メダカのお礼と宇宙に興味があることを伝えたところ「将来宇宙で一緒に働きましょう」と声をかけられます。高校３年生のとき、どうしても『宇宙と生命』を勉強したいと思い、理科系へ進路を変更して猛勉強を始めました。

宇宙授業のようす

現在は、東京大学大学院で宇宙生理学を学びながら、宇宙環境では筋肉に負担がかからないため進行が遅くなる病気や、リハビリに効果的な病気もあるかもしれないとの視点から、理化学研究所でアルツハイマー病などの研究もしています。「これからも人の役にたつ研究を続けていきたい」と熱い思いを語ってくれました。

また、小黒さんは東京大学の学生を中心に結成された『ライブ・イン・スペース・プロジェクト』のメンバーの一員でもあります。ボランティアで科学館などへ出向き、『宇宙授業』と題して宇宙を身近に感じてもらう試みとして、宇宙メダカの子孫の観察や宇宙食の試食などを体感してもらう授業を行っています。

宇宙飛行士だけの特権だった宇宙旅行も、近い将来には、誰でも行ける時代になるそうです。「日本が有人ロケットの打ち上げを行うときには、プロジェクトのメンバーとして、ぜひ参加したい」と大きな夢も持っています。

向井さんと出会って10年。今では、向井さんとともに宇宙の研究に携わり、メールのやりとりもしています。「宇宙授業を通して子どもたちが自分の好きなことを見つけ、科学の楽しさを実感してくれればと思います。『宇宙メダカ』との出会いが、私が宇宙生理学を学ぶきっかけとなったのですから」と語る小黒さん。今日も白衣を身にまとい研究に打ち込みます。

誰でもエッセイ

テーマ　ストレス解消法

漫画日記を書きまくる

東所沢・中原　星子

私がとても好きでやっているストレス解消法はというと、いろいろな日記を書きまくることだ。

旅行や映画のことを書くイベント日記。食べ物やレストランのことを書くおいしいもの日記。また、私の持病にまつわる困ったことや面白かったことを書く病気日記。すべてイラスト入りのエッセイ風。

そして、何といっても一番気に入っているのが家族の日常を描く漫画日記。14歳と17歳の息子たち。そして夫のおもしろい言動が中心だ。

息子や夫は、毎日何らかのことをしでかしてくれるので、ネタには事欠かない。

この漫画日記を書きまくるのが、私のお手軽ストレス解消法であり、家族の貴重な記録でもある。

エアロビクス

北岩岡・大野　喜久子

腰痛予防の目的で通い始めたフィットネスクラブで、エアロビクスを始めた。ビートの効いた音楽に合わせ、さまざまなバリエーションを行い、体力を高めていく。

「自分のペースで体を動かしてください」との先生の言葉は優しいが、全神経を集中しなければ、早い動きについていけない。全身汗だくの有酸素運動である。

しかし、終わったあとの気分は格別で、嫌なことなど一瞬に忘れてしまうほどの壮快感がある。

何かとストレスのたまりがちな現代。傷ついた心をいやしつつ、便利さになれて怠慢になり過ぎた体にも少し活を入れて、明日のためのエネルギーを養うことも決して悪くはないと思う。

気分は音楽家

並木・菅原　俊江

弦楽合奏サークルに入っていた学生時代に、楽譜を書き写しながら不思議と心が落ち着く自分に気づいた。

写譜をしながらその曲にひとり浸って、自分自身がいやされていたのかもしれない。それが今では、パソコンで楽譜作成ができるようになり、今の私のストレス解消になっている。

数年前に友人と始めた管弦楽アンサンブルの楽譜は、メンバー１人が編曲し、私がパソコンの音楽ソフトでスコアー譜とパート譜を作成している。

強弱やテンポはもちろん、指定した楽譜でオーケストラ演奏もできる優れもので、時間の経つのも忘れるほどである。

家族には、あきれられているが、まるで大音楽家になったようなひとときに、ひとり気分良くしている。

日記に綴った母の手紙

若狭・大澤　美江

私はストレスをためやすいので、いくつかの発散の仕方がある。

悲しみの深いときは、音楽療法。家では、好きなCDを朝から晩まで聴く。コンサートにも行く。特にレクイエムは、静かな気持ちにさせてくれる。

単純なストレスは、友人に電話をして、うるさいほどにしゃべりまくる。

それにしても、13年前、母と永遠の別れをしたとき、悲しみに打ちひしがれていた。母の写真を見ることもできなかったし、母の日が巡ってくるたびに、花屋さんの前に立つ大勢の人々を、どれほどうらやましく思ったことか…。

毎日、毎日、天国の母にあてて日記を綴っていた。

それは、３年の歳月をかけていた。

次回のテーマは『雨の日の過ごし方』です

▶「誰でもエッセイ」ではテーマにそった投稿を募集▶はがきに300字以内で▶文章は添削あり▶掲載者には記念品を進呈▶次回のテーマは「雨の日の過ごし方」▶締め切りは６月７日㈫必着▶住所・氏名・年齢・電話番号を明記▶送り先：〒359-8501・並木１-１-１　所沢市役所秘書広報課「みんなの広場」係　◎お便りお待ちしています。